

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	ペイオフME液剤
製品コード	AK3303J
会社名	アグロ カネショウ株式会社
住所	〒107-0052 東京都港区赤坂4-2-19 赤坂サステイスト7F
電話番号	03-5570-4711 (所沢事業所: 04-2003-7006)
緊急時の電話番号	同上
FAX番号	03-5570-4708 (所沢事業所: 04-2003-7302)
メールアドレス	toiawase@agrokanesho.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	農薬(殺虫剤)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分4
	自然発火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分3
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入、ミスト)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	皮膚感作性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分外
環境に対する有害性	特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分外
	水生環境急性有害性	区分1
	水生環境慢性有害性	区分1

※記載がないものは「分類対象外」または「分類できない」

ラベル要素



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H227 可燃性液体
	H301 飲み込むと有毒
	H320 眼刺激
	H400 水生生物に非常に強い毒性
	H410 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性
GHS分類に該当しない他の危険有害性	有用生物類の蚕、ハチに対しても毒性が強いため、環境生物への影響に注意すること。

注意書き

【安全対策】
P210 熱、恒温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P264 取扱い後は、手をよく洗うこと。
P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

- P273 必要な時以外は、環境への放出を避けること。
- P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 【応急措置】
- P301+P310 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
- P305+P351+P338
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P330 口をすすぐこと。
- P321 特別な処置が必要である (解毒剤:メトカルバモール製剤)。
- P337+P313 眼の刺激が続く場合、医師の手当てを受けること。
- P370+P378 火災の場合には、消化に粉末消火剤、噴霧水など適切な消火剤を使用すること。
- P391 漏出物を回収すること。
- 【保管】
- P403 換気の良い場所で保管すること。
- 【廃棄】
- P501 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物業者に委託して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 成分及び含有量 [有効成分] 化学名又は一般名 別名 分子式(分子量) CAS番号: 官報公示整理番号 (化審法・安衛法) 濃度又は濃度範囲 [その他の成分]	混合物 (RS)- α -シアノ-3-フェノキシベンジル=(S)-2-(4-ジフルオロメトキシフェニル)-3-メチルブチラート フルシトリネート $C_{26}H_{23}F_2NO_4$ 721024-77-5 (安衛法)4-(7)-1473 4.4% 水、界面活性剤等 95.6%
---	---

4. 応急措置

吸入した場合 皮膚に付着した場合 目に入った場合 飲み込んだ場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 汚れた衣服を取り替え、直ちに水と石鹼で十分に洗い流し(15~20分間)、刺激があれば医師の手当てを受ける。本剤は他の合成ピレスロイド剤と同様に、皮膚に感覚異常、特に顔面のしびれ、刺痛又は激痛(24時間以上持続しない)のような様々な知覚異常を引き起こす可能性がある。患部にオリーブオイルを塗布すると刺激を軽減することができる。(オリーブオイルの塗布前に患部を石鹼水で洗浄後乾燥させておくことより効果的である。) 直ちにまぶたを開き流水で15分以上洗い流した後、眼科医の診察を受ける。 直ちに口をすすぎ、多量の水に飲ませて、直ちに医師の手当てを受ける。意識不明の場合及び痙攣時は嘔吐させることや口からものを与えることは避ける。
---	---

医師に対する特別注意事項
 医師の手当てを受ける。
 少量を飲み込んだ場合、既に嘔吐した場合、または処置が遅れた場合は活性炭またはソルビトールの経口投与を考慮する。
 大量を飲み込んで1時間以内の場合は胃・腸洗浄を考慮する。
 治療には合成ピレスロイドの中毒に有効とされるメトカルバモール製剤が有効であることが動物実験で確認されている。その他症状に応じた治療を行なう。
 解毒剤：メトカルバモール製剤

5. 火災時の措置

消火剤 水、二酸化炭素、消化泡、化学消火剤等
使ってはならない消火剤 棒状放水
特有の危険有害性 一酸化炭素、二酸化炭素、フッ化水素、窒素酸化物などが発生する恐れがある。
特有の消火方法 危険でなければ火災区域から容器を移動する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵などを吸入しないようにする。
環境に対する注意事項 流出した製品が河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化方法・機材 回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。漏出物を直接に河川や下水に流してはならない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
注意事項 みだりにエアロゾル等が発生しないように取り扱う。
安全取扱い注意事項 医薬用外劇物。ラベルに従って使用すること。作業場の換気を十分に行い、暴露防止の項に示した防護具等を着用すること。作業後は顔と手を洗うこと。凍結後、融解した際には分離することもあるので、使用に際してはよく容器をよく振ること。
保管 保管条件 容器は密閉し、熱源や直射日光を避けて乾燥した換気の良い冷暗所で保管すること。安全な場所で、食品または飼料と一緒にせず、子供の手の届かない場所に保管すること。
保存安定性 3年間安定。原則として40℃以上で保管しないこと。もし本製品を上記指示以上に長期間保管すると製品特性が変化する恐れがある。
容器包装材料 ガラス瓶、ポリエスチレン瓶

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 局所換気装置などで作業場の換気を十分に行うこと。緊急時のため、作業所には洗眼及びシャワーを備えること。

管理濃度		設定されていない
許容濃度	ACGIH(TLV)	時間加重平均 フルシトリネート 1mg/m ³
保護具	呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	適切な呼吸器保護具(保護マスク)を着用すること。 適切な保護手袋(不浸透性手袋)を着用すること。 適切な眼の保護具(ゴーグル型保護眼鏡)を着用すること。 作業及び予想暴露量に基づいて保護具を選択すること。
衛生対策		皮膚、眼及び衣服への直接の接触を避ける。密閉された作業着を着用する。衣服に付着した場合は直ちに着替え、安全に廃棄すること。作業着は分けて保管することが望ましい。食料、飲料及び家畜飼料からは分けて保管し、作業所での飲食及び喫煙もさけること。 作業終了または休息時には顔や手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	形状	澄明水溶性液体
	色	青色
	pH	5.3
比重		1.02 g/cm ³ (20°C)
引火点		66.3°C (セタ密閉式)
動粘度		11.6 cSt (62.6°Cにおいて)
凍結点		-12°C

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の下条件下では安定。
危険有害反応可能性	通常の下条件下では安定。
避けるべき条件	確認されていない。
混触危険物質	確認されていない。
危険有害な分解生成物	確認されていない。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラット(雌) LD50値: 50~300 mg/kgに基づき区分3とした。
	経皮	ラット(雌雄) LD50値: >2000 mg/kgに基づき、区分外とした。
皮膚腐食性・刺激性		ウサギによる皮膚刺激性試験において刺激性が見られたが、軽度の刺激性であったため区分外とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性		ウサギ眼刺激性試験において中等度の刺激性(6日後までに回復) から区分2Bとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		皮膚感作性: モルモットに対して陰性であったことから区分外とした。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性		コイ96時間LC50値: >0.0078mg/L、ミジンコ48時間EC50値: 0.016mg/L、藻類72時間EC50値: >100mg/Lであったことから区分1とした。
水生環境慢性有害性		慢性区分1に分類されるフルシトリネートを4.4%含有することから区分1とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物		廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装		容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 該当しない
 国内規制 輸送に関する国内法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
 特別安全対策 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。重量物を上積みしない。

15. 適用法令

農薬取締法 登録番号 第23643号
 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) 該当しない。
 労働安全衛生法 名称を通知すべき物質
 毒物及び劇物取締法 劇物(指定令第二条32)
 消防法 指定可燃物(可燃性液体類)

16. その他の情報

公益財団法人 日本中毒情報センター
 散布作業中や散布後に異常を感じた場合は、直ちに医師の手当てを受けてください。
 処置法などで不明なことは、医師から下記に電話してお尋ねください。

中毒110番	一般市民向け	医療機関専用有料電話 (1件につき2,000円)
大阪 (365日, 24時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば (365日, 9~21時対応)	029-852-9999	029-851-9999

- 記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。
- 注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。
- 記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。